

みんなでぐんぐん! 「あさがおー!! かいぎ」



～経験を“糧”にする アサガオ栽培活動～

アサガオをなんとなく育てるのではなく、視点をもって関わり、仲間と協力して育ててほしいという願いが伝わる、教職3年目の教師の感動の記録を掲載します。

執筆 兵庫県西宮市立北六甲台小学校教諭 田中咲也子



『経験をただの“出来事”で終わらせないために、“糧”にするために必要なのは「意識」』（※1）引用文献：森川正樹先生（関西学院大学初等部）が著書で述べられたこの言葉が、単元構想のきつかけとなりました。生活科における1年生の栽培活動では、一般的にアサガオを栽培します。世話が容易で成長の変化が捉えやすいという良さがある一方で、特に工夫しなくても育つという特徴があります。本単元では、アサガオをただ育てるのではなく、どのよう育てるか^①に焦点を置きました。

『新学習指導要領生活科「内容」(5)では「身近な自然を観察したり、季節や地域の行事に関わったりするなどの活動を通して、それらの違いや特徴を見付けることができ、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わることに気付くとともに、それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとする」となっています。現行の学習指導要領に「それらの違いや特徴を見付けることができる」の文言が付け加えられるなど、より一層「思考・判断・表現」の重要性が強調されています。』（※2）

そこで本実践では、「思考・判断・表現」する場を設定するために、日々の世話や観察記録を

書く活動に加えて、アサガオを育てる中で感じた喜び、疑問、悩み等を話し合う「あさがおー!! かいぎ」を行いました。気付きを表出し、出合った課題と向き合い、どのようにしたらよりよく成長させることができるかを考えることで、生活科で育成を目指す3つの資質・能力^{（※3）}の獲得を目指しました。

生活科で育成を目指す3つの資質・能力

【知識・技能】

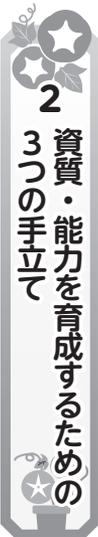
生活の中で豊かな体験を通して、感じたり、気付いたり、分かったり、できるように努めます。

【思考・判断・表現】

生活の中で気付いたことやできるようにしたことなどを使って、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする。

【学びに向かう力・人間性】

どのような心情、意欲、態度などを育み、よりよい生活を営むか。



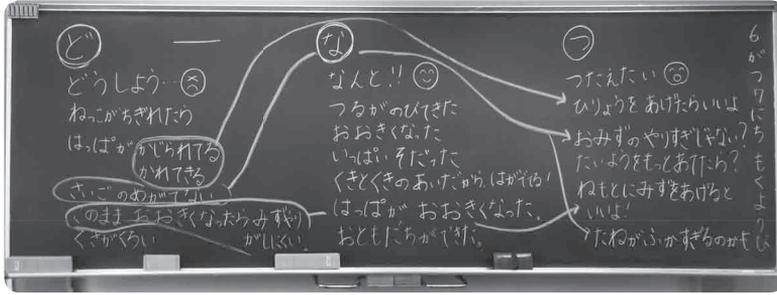
2 資質・能力を育成するための3つの手立て

生活科で育成を目指す3つの資質・能力に対応する3つの手立てを以下に示します。

（1）アサガオを見る視点【知識・技能】

生活科の特質は、「思いや願いを実現していく過程で、一人一人の子供が自分との関わりで対象を捉えていくこと」^{（※4）}であり、学習活動には

写真1：第2回「あさがおー!! かいぎ」板書



〈3つの視点〉

- ① どうしよう (困っていること)
- ② なんと!! (嬉しいこと)
- ③ たえたい (みんなに話したいこと)

「身近な人々、社会及び自然と関わる中で、一人一人が感じたり考えたりしながら、対象に対する特徴やよさなどの個別的な気付きを自覚し獲得していくことができる」(※)活動が必要です。左下に示した3つの視点を置くことで、一人一人をアサガオと向き合わせ、栽培における成長の喜びや不安をより自覚することをねらいました。

② 幼児教育との接続【思考・判断・表現】

アサガオは5月上旬に植えました。入学してまもなくひらがなを勉強しますが、この時期にはまだ習得できていません。幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(※)から子供たちには思考力が芽生え、言葉による伝え合いができると考えます。気付いたことをすぐに発言できるように、机の上にアサガオの鉢だけを置いて話し合いました。

③ 思いの高まったタイミングで話し合うこと

【学びに向かう力・人間性】

アサガオの様子や子供の反応を丁寧に観察し、話し合う日を設定しました。例えば、アサガオの葉が増えたり、つるが伸びたりしたときに子供は喜び、人に話したくなります。

また、成長が遅れていた葉が枯れたりすると、子供は困り、誰かに相談したくなります。成長の喜びや、一人では解決できない課題に出合ったときに、話したくなりますし、人の話を聞きたくなります。話したくなる切実感、学びに向かう力となり、友達と協力しようとする態度の育成にもつながります。

3 実践の概要

本実践は、平成30年5月から9月までの間、一年生26名を対象とした実践です。

〈きつかけ〉「あさがおーって?」

朝の顔と書いて「あさがお」と読むことを話し、きれいに咲いたアサガオの写真を見せた。

「みんなも育てたい?」と聞くと「育てたい!」と声が上がった。

〈第1次 たねをまこう〉(2時間)

種の観察をしたのち、一人一人願いを込めて植えた。

〈第2次 せわをしよう〉「あさがおー!! かいぎ」

ではなしあおう(5時間)

アサガオの成長の喜びや不安を共有し、みんなで力を合わせて育てる。

〈第3次 ふりかえろう〉「あさがおえにつき」

をかこう(国語4時間)

これまでの話し合いを写真とともに振り返り、絵日記をかって伝え合う(国語「えにつきをかこう」)。

〈第4次 たねをとろう〉(2時間)

できた種をこれからどうするか話し合う。

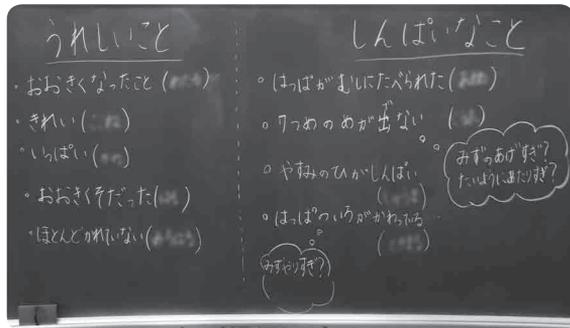
4 考察

資質・能力を育成する子供の姿とAさんの変容について、以下に示します。

(1) 気付きの質の高まり

【知識・技能】【思考・判断・表現】

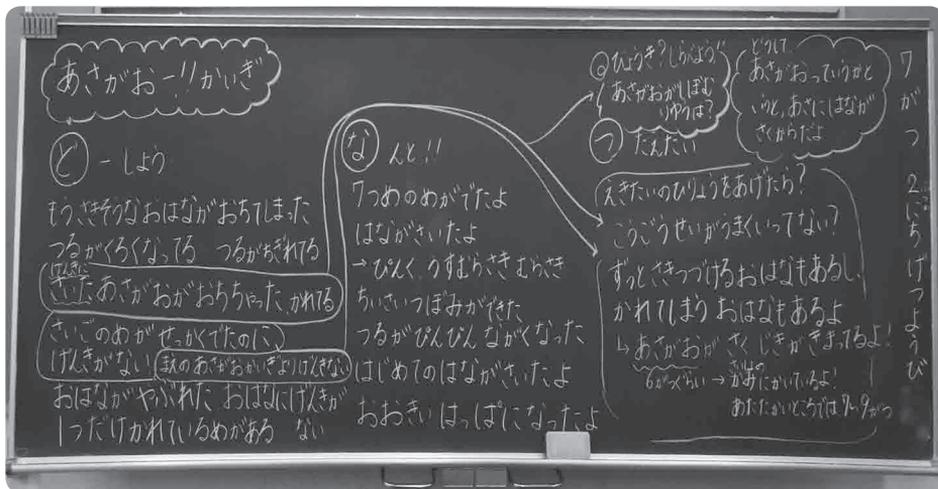
写真2：第1回「あさがおー!! かいぎ」(5月29日)



うれしいこと	しんばいなこと
<ul style="list-style-type: none"> • おおきくなった • きれい • いっぱい • ほとんどかかれていない 	<ul style="list-style-type: none"> • むしにたべられた • 7つめのめがでない • やすみのひがしんばい • はっぱのいろがかわっている

1回目の話し合いは、嬉しいことと心配なことを聞きました。「おおきい」「きれい」など、抽象的な言葉で表現した子供たちが、5回目の話し合いでは、「もう咲きそうなお花が〜」や「元気に咲いていたあさがおが〜」、「前のあさがおよりも〜」というように具体的に表現しています。それぞれの視点から気付きを表出し、繰り返し話し合いを行うことで気付きの質が高まったと考えます。さらに、元気に咲いたアサガオが枯れてしまったという悩みに対して、「液体の肥料をあげたら?」「あさがおは、朝に咲くから朝顔っていうから、枯れるのは普通だよ」「咲く時期

写真3：第5回「あさがおー!! かいぎ」(7月2日)



は決まっているんじゃない?」などと伝える子供がいました。出合った課題と向き合い、悩んでいる友達のために考える姿が見られました。

(2) 授業中の発言がほとんどないBさん

【思考・判断・表現】

【学びに向かう力・人間性】

Bさん(女子)は、計算やひらがなを書くことに課題がありました。自信のなさから授業では、進んで発表することはありませんでした。全5回の話し合いでも、最初はじっとアサガオを見たり、人の話を聞いていたりして過ごしていました。そのBさんが、自ら手を挙げたことがあります。それは、自分のアサガオが咲いたときです。小さな声ではにかみながら、「なんと、はじめてのお花が咲きました」と、話しました。それを聞いたみんなからは、拍手が起きました。発達の段階を踏まえて言葉で表現させることで、Bさんの学びに向かう姿勢が生まれたと考えます。

(3) つるが伸びない悩みをみんなで解決

【学びに向かう力・人間性】

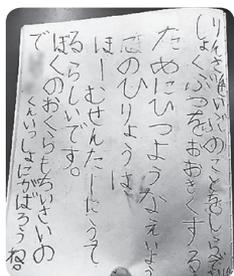
【思考・判断・表現】 【知識・技能】

つるが伸びなくて悩んでいることを伝えた男の子(Cさん)がいました。おとなしいCさんは、それまでの話し合いで発言することはありませんでした。つるを伸ばしたいという切実感が、学びに向かせたと考えます。それを聞いた子供は、「水のあげすぎかな」「人も成長の速さはそれぞれが違うから、植物も同じじゃないかな」と推測します。起きている事象の原因を

考え、表現しています。そして、「それには、いい肥料があるよ」とAさんが言いました。Aさんの母親は、家で花を育てお店に売る仕事をしています。「液体の肥料とか、植物が大きくなるスプレーとかあるよ！」ちなみに「小さくなる肥料もあるんだよ！」と黒板に書いて熱心に説明しました。

教師が「じゃあ、どんな肥料がよいか調べよう」と提案しました。すると次の日、「リン酸成分の多い肥料を月に2回か3回あげること」と調べた子供がいました。その次の日には、リン酸について調べてくる子供がいました。(写真4)

写真4:リン酸について調べてきた子供の自由帳



りんさんせいぶんのことをしらべました。しよくぶつをおおきくするためにひつようなえいよう。このひりようは、ほーむせんたーに(で)うってらるらしいです。ほくのあくらもちいさいので、Cくんいっしょにがんばろうね。

Cさんはその後、母親と共にホームセンターに行つて肥料を選び、7月には花を咲かせることができました。ここでもまた、困っている友

達を助けるためにどうしたらよいかを考える姿が見られました。

(4) Aさんの変容「学びに向かう力・人間性」

Aさんは、1回目と2回目の話し合いでは、ほとんど発言をしません。彼にとつて、芽が出ることや、葉が増えることは母親の仕事上、めずらしいことではなかったからです。彼が発言したり、進んで調べたりするようになったきっかけは、3回目の話し合いで「つるがない」と困っていたCさんに肥料の話をしたことでした。そのとき、クラスのみんなの視線が彼に集まりました。これまで彼がみんなから注目を浴びたのは、朝の準備が遅れたり給食エプロンに着替えるのを待たせたりするときでした。その日、植物が大きくなる肥料や小さくなる肥料、液体の肥料、粉末の肥料を黒板に書きながら流暢に説明しました。彼の説明に興味を示した子は、「ねえ、それってどこで売っているの?」「どんなときに使うの?」と質問が飛び交い、その質問一つ一つに得意げに答え、「Aくんってすごいな」と言われました。彼は、このとき、自分が他者に認められたという自己肯定感、人の役に立った貢献感を感じたにちがひありません。

この日から、Aさんは「伝えたいことがいっぱいある!」と言つて、「あさがおー!! かいぎ」で進んで発言するようになりました。つるを伸ばしたいというCさんに肥料の存在を教えたこ

とをきっかけに、他の人にもっと分かりやすく様々なことを教えたいと考えました。

これまでAさんは、休憩時間はひとり自由帳に車の絵を書いて過ごしていましたが、話し合いを重ねるうちに、クラスの友達と遊ぶようになり、準備を急いだりする姿も見られるようになりました。Aさんはこれまでよりも他者を意識し、他者と共に生活を創つていこうとする態度を培いました。

Aさんは、クラスに転入生がやってくる前日、連絡帳に書く一言日記でこんなことを書いていました。「あしたは、Dさんが来ます。Dさんに、しよくぶつのことをたくさんおしえたいです」と。彼は、この単元を通して、人と関わる喜びを味わいました。

5 成果と課題

最後に、本実践の成果と課題をまとめます。

成果

アサガオを見る3つの視点を置くことで、子供たちが気付きを自覚することができました。また、話し合いを重ねることに、気付きの質の高まりや、量が増えていくことを実感しました。そして、言葉による伝え合いは、入学したての

一年生が授業に参加する手立てとして適切であったと感じました。さらに、子供たちの思いが高まったタイミングで話し合うことは、切実感を生み、学びに向かう姿勢を育成しました。

アサガオを栽培する経験を資質・能力という糧にするためには、気付きを視覚化して自覚させ、思考・判断・表現する場の設定が有効だと思いました。

課題

アサガオの成長を話し合う中で、子供たちからリン酸や光合成といった言葉が出てきました。私は、その言葉を調べてきた子供を授業の中で取り上げました。しかし、それを聞いて分かった子供もいれば、難しくてよく分からないと感じる子供もいました。このことから、対象とする子供たちに適切な学習課題であるか精査することが必要だと感じました。

また、言葉による伝え合いは、子供たちの見取りが難しいという課題もあります。日々の子供たちとの会話を大切に、アサガオと関わる様子を丁寧に観察することが大切だと思いました。

6 おわりに

子供たちは、「あさがおー!! かいぎ」で話し合うことで、アサガオの変化の一つ一つを敏感に感じ取り、心からアサガオの成長を願いま

た。また、定期的にみんなで見せ合い、話し合うことで、自分の育てるアサガオの存在を常に意識していました。アサガオの悪い変化は自分の悩みのように話し、よい変化は自分のことのように喜びました。そして、困っている友達を助けたり、一緒に喜びを味わったりすることで、子供同士をつなぐきっかけにもなりました。

この実践から、改めて「何となく」しない大切さ、教師が変われば子供も変わることを実感しました。私自身もまた、ただ教えるのではなく、子供たちにどんな力を付けたいか、どんな視点を持ってより学びが深まるか、どの子も参加できるかなどをこれまでより意識するようになりました。

これからも「何となく」しない学習活動を通して、子供たちと共に学び続ける教師でありたいと思います。

【参考・引用文献※】

- i 森川正樹『できる先生が実はやっている授業づくり77の習慣』(明治図書2016年)
- ii 田村学「新学習指導要領 小一指導の改訂ポイント」生活科指導を中心にした学びのあり方の改善」『小一教育技術』小学館2018年4月号、8頁)
- iii 田村学「生活・総合『深い学び』のカリキュラム・デザイン」(東洋館出版社2017年15頁)
- iv 田村学「生活・総合『深い学び』のカリキュラム・デザイン」(東洋館出版社2017年15頁)
- v 田村学「生活・総合」のカリキュラム・デザイン」(東洋館出版社2017年15頁)
- vi 田村学「新学習指導要領 小一指導の改訂ポイント」生活科指導を中心にした学びのあり方の改善」『小一教育技術』小学館2018年4月号、7頁)

受賞の言葉

兵庫県西宮市立北六甲台小学校教諭

田中 咲也子

今年度で教員3年目を迎え、初めて一年生を担当しました。入学したての一年生は、眩しいくらいキラキラした目をしていて、やる気と希望に満ち溢れています。初めての授業、初めての給食、初めての掃除…。初めて尽くしの一年生はいつだって前向きです。そんな素敵な一年生と過ごす一瞬一瞬が、かけがえのないものと感じました。

そして、この子たちには「何となく」学ぶのではなく、何事にも目的や思いを持って学んでほしいと思いました。アサガオを育てる活動も、視点を持ってアサガオと関わり、仲間と協力して育ててほしいと考え、「あさがおー!! かいぎ」を計画しました。

実践の中で、アサガオの成長を自分のことのように語り、仲間の悩みを共に解決しようとする子供たちの姿を見ました。その姿から、教師自身も思いを持って授業をつくることで子供が変わることが分かりました。そんな大事なことに気付かせてくれた26人のキラキラ輝く子供たち、いつも子供の話をたくさん聞いてくださる同僚の先生たちには感謝の気持ちでいっぱいです。

この受賞を励みに、これからも経験を糧にする授業づくりを追求し、子供と共にぐんぐん成長する教師でありたいと思います。

